

教育委員会行政視察について

1 視察日程

令和7年（2025年）11月5日（水）～7日（金）

2 視察先と主なテーマ

- （１）新潟市教育委員会
- （２）新潟市立大野小学校（リーディングDXスクール、自己調整学習）
- （３）天澤寺・丸岡城跡史跡公園（加藤家ゆかりの地）
- （４）鶴岡市教育委員会
- （５）鶴岡市立櫛引西小学校（熊本市立壺川小学校との交流校）
- （６）鶴岡市立櫛引中学校（熊本市立京陵中学校との交流校）
- （７）松ヶ岡開墾場（国指定史跡・日本遺産）

3 視察者

教育長 遠藤 洋路

教育委員 西山 忠男、 苫野 一徳、 澤 栄美、 村田 槇、 清田 晃子

（随員：指導課長 榎木 敏之）

4 視察内容

（１）新潟市教育委員会

<日時> 11月5日（水）14：30～16：30

<概要> 新潟市の夏目久義教育長を表敬訪問し、新潟市の教育施策についての行政説明を受ける。

<取組に関する説明>

○いじめ対策の取組（独自の4つの取組）

- ・いじめ調査アンケート（年3回以上）
- ・校内いじめ対応ミーティング（必ずその日のうちに管理職、担任、生徒指導担当等で会議をする）
- ・初期対応ガイドブックの活用
- ・程度表（どのようなものに対応するのか判断する）

○不登校対策の取組

- ・居場所づくり（スペシャルサポートルーム設置拡充、フリースクール連携協議会設置等）
- ・相談支援体制の充実（SC配置、教育相談センターの活用等）
- ・福祉分野との連携（SSW配置、家庭支援ガイドブック作成等）
- ・保護者対応の工夫（校長退職者をアドバイザーとして配置、スクールロイヤー制度導入等）

○ICT活用の推進

- ・活用率は高く、サポート体制が整っている。授業改善にはまだ課題がある。

○学力向上の取組

- ・新潟市授業づくりサポートや情報活用能力の育成指針等を作成し、活用している。

○こどもの体力向上の取組

- ・体力運動能力調査については、新潟市は全体的に高い結果である。質問紙調査では、「運動が好き」「朝食を毎日食べる」の項目は高いが、「体育・保健の授業は楽しい」の項目は低い状況である。



新潟市教育委員会内会議室の様子

- ・課題解決に向けて、学校全体で取り組む体力ジャンプアップ（児童会・生徒会とタイアップした取組）の実施、「またやりたい」と思える授業づくりの推進、トップアスリート活用授業の充実等に取り組んでいる。
- ・水泳授業については、小学校は必ず実技をしている。行政がバス代を負担し、市営プールを利用している学校もある。中学校にはプールがない学校もあるため、他都市の取組も参考にしながら、来年度に向けて市の方針を決める予定である。

（２）新潟市立大野小学校

<日時> 11月6日（木）9：00～11：10

<概要> 文部科学省リーディングDXスクール指定校（R6～7）、生成AIパイロット校（R6）。学校教育ビジョンに「豊かな言語能力・情報活用能力・自己調整能力を備えた『自立した学習者』（自分で考えて学ぶ子ども）の育成」を掲げている。



新潟市立大野小学校の正門

<授業参観時の児童の様子>



児童が主体的に活動している様子



自分が調べたいことを試している様子



3人で相談しながら学んでいる様子



1人学びを選択し、考えをまとめている様子

<校内研修に関する説明>

○研修テーマ

「自立した学習者」（自分で考えて学ぶ子ども）の育成

○取組について

- (1)教科と汎用的な資質・能力を高める授業づくり
 - ・クラウド型授業モデルの開発
 - ・深い学びを目指した授業の実施
 - ・国語と算数の教科担任制の実施
- (2)自己調整型家庭学習の充実
 - ・クラウド型家庭学習モデルの開発
 - ・確実な習慣化を図るシステム化の推進
 - ・学力形成の下支えとなるメニューの開発
- (3)豊かな言語環境のある学級づくりを核とした支持的風土の醸成
 - ・いじめ防止プログラムの活用
 - ・年間を通した適切な言葉の指導
 - ・学級力アンケートの活用



授業公開後の学校との意見交換の様子

○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について

自己調整の視点		教師の役割
個別最適な学び方	協働的な学び方	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題（個数、難易度） ・誰と学ぶか（一人で、友達と、・・・） ・何からどのように情報を収集するか ・何を用いて、どのように ・時間配分をどのように調整するか ・何を用いて表現するか ・何を用いてどのように振り返るか 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ交流（対話） ・自由交流（対話） ・クラウド参照（他者参照） ・クラウド交流（相互評価） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいにせまる単元デザインと質の高い課題の構想 ・クラウド共有物を準備する ・クラウド共有物を中心に子供の思考を読み解く ・個と全体への指導・支援

○教師の指導性向上のための取組

- ・個人研究テーマを設け、授業実践及び報告会を実施している。
- ・外部講師による支援体制を充実させている。「自己調整学習」を木村准教授（桃山学院大学）、「教師の指導性および言語活動」を堀田助教（新潟青陵大学）にお願いしている。
- ・毎週火曜日に外部講師に授業を見ていただき、アドバイスを受けている。具体的には、講師がタブレットで写真を撮りコメントを入れる。教員は講師の気づきや感想を参考にして、自らの授業改善に活かしていく。この繰り返しで、教員の自主的な授業改善への取組に繋がっていく。

○公開授業に関する意見交換時の主な内容（黒字:熊本市教委、青字:大野小学校）

- ・クラウド型授業はどの授業で行われるのか？
 - 個人研究テーマの中で教科を決めて、進めていく。各先生の判断で本年度取り組みたい教科で取り組むことになる。教科担任制をしているため、うまく進んでいる。
- ・子どもが自分に必要な学習を選択判断する場合、苦手な教科を避けるということにならないか？
 - 二極化している。家庭学習ができない子もいる。それぞれの立ち位置の子どもが、その場所から少しレベルアップするということで取り組んでいる。
- ・自己調整を促す言葉かけとは？
 - 先生の授業スタイル、子どもの学びのスタイルが確立しているところがある。自分でやる子もいる。目的をもって交流するよう、何のためにするのか等の声掛けをしている。

- ・教科担任制は何年生からか？
→1年生から実施している。運動会後の6月頃から取り組んでいる。国語と算数でペアリングがうまくいっているため、先生方も効果を感じている。
- ・特別支援支援学級でICTを活用しているか？
→ロイロノートは活用している。
- ・本日は素敵な授業を見せていただいた。このスタイルを獲得されるまで時間がかかったのではないかな。どれくらい時間をかけてこうなったのか。苦労とか、悩まれていることなど教えてほしい。
1単位時間で完結するものではないが、いろんな子が認められていた。一斉授業では学ぶことが難しい子どもが教室の中で過ごすことができていた。
→ロイロノートを1年生から使っていて、子どもたちは慣れている。4月から共有ノートを使い始めて、夏休み前頃にはほとんどの子どもが操作に慣れてきた。今日の授業ではスムーズに操作できていたと思う。私は大野小に今年から来たが、以前は一斉授業が多かった。本校で支援が必要な子と関わるうちに、「子どもは、わかりたいけどわからない」「教師側が変わらないといけない」「子どもの考えが授業内容からそれていてもそれを次の授業に生かしていくこと、子どもの発見を生かしていくことが大切」などを考えるようになり、現在は子どもたちの学びを理科として学びへつなげていく架け橋になることを考えている。ただ、本当にこれでよいかは悩んでいるし、何が正解なのかについても悩んでいる。
- ・子どもたちがテーマを決めることも考えてよいと思う。
→発達段階を見て、教師が整えるところは考えている。子どもたちが気になることを出し合い、大きな問いにして授業したことがある。
- ・教室の雰囲気個性がでていてよかった。後ろに何も貼ってなかったが、どうしてか？
→視覚的な刺激が多すぎるため、刺激が少ないことを考えてやっている。
- ・総合的な学習の時間はどのようなことをしているか？
→4年生では環境美化プロジェクトに取り組んでいる。自分たちにできることはないかを主体的に考え取り組んでいる。

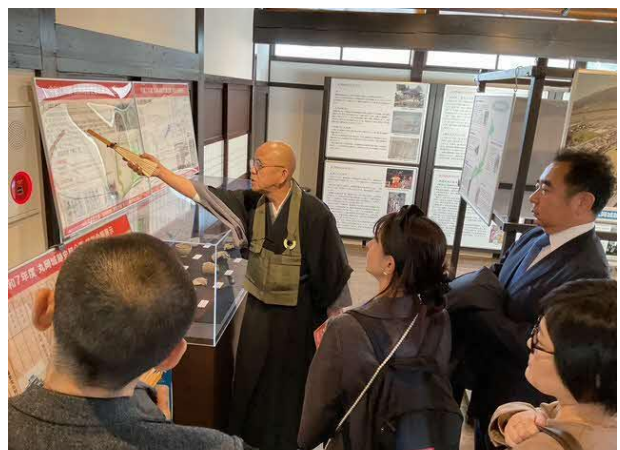
(3) 天澤寺・丸岡城跡史跡公園

<日時> 11月6日(木) 15:30~16:30

<概要> 加藤忠広公が改易後に22年の余生を過ごした地。忠広公は父・清正公の遺骨を丸岡に持ち込んでおり、天澤寺には清正公の墓碑が建てられている。
視察時は、天澤寺住職である庄司良圓様からの解説のもと、天澤寺、丸岡城跡史跡公園等を見学することができた。



天澤寺(てんたくじ)



楽朋館内の展示を視察している様子



丸岡城跡史跡公園（写真は御居間）



天澤寺周辺の石碑等



天澤寺内の様子(加藤家関係の展示)



天澤寺の本堂

(4) 鶴岡市教育委員会

<日時> 11月6日(木) 16:45~17:15

<概要> 鶴岡市の成澤和則教育長を表敬訪問。

<教育目標> ふるさと鶴岡を愛し未来をひらく、いのち輝く人づくり
いのち輝く市民が躍動する環境づくり

<食文化> 鶴岡市は、平成26年に日本で初めて「ユネスコ食文化創造都市」に認定された。

<人・文学> 庄内・鶴岡の文芸が花を咲かせた時期は文化・文政時代(1804年~1830年)といわれ、その後も致道館の伝統教育により長年にわたり多くの文人・偉人を輩出してきた。藤沢周平、高山樗牛、田沢稲舟、相良守峯、丸谷オーなど多数。



鶴岡市教育委員会との交流



鶴岡市役所

(5) 鶴岡市立櫛引西小学校

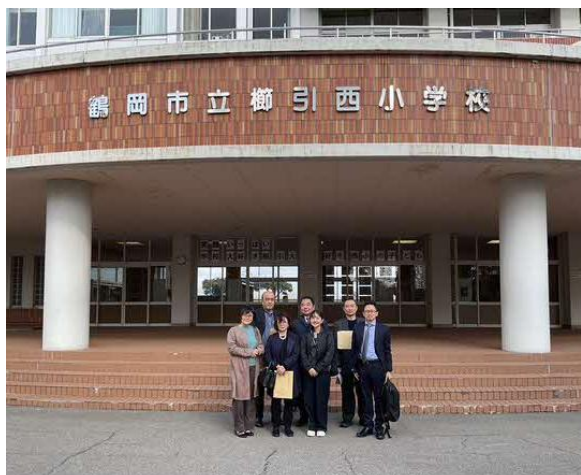
<日時> 11月7日(金) 9:00~9:50

<概要> 熊本市立壺川小学校との交流校。児童数179人・7学級(通常7学級、特別支援3学級)の小規模校。

<学校教育目標> 笑顔いっぱい 学校大好き 櫛引大好き 西小の子ども
「舎短取長」で自立・自律する力を育てる

<学校経営方針>

- ・児童一人一人が認め合い、どの子にも居場所のある安心・安全な学校づくりを推進する。
- ・櫛引地域の自然・歴史・文化・人材への感謝と誇りを醸成し社会に開かれた教育課程を展開する。
- ・子どもが主体的に粘り強く学ぶ授業・子どもを主語とした授業を通して、確かな学力を育成する。
- ・教職員全員が個々の力と主体性を発揮し、チーム西小の一員として積極的に学校経営に参画する。



正面玄関前



校長室での意見交換の様子



授業の様子



学校周辺の風景 (写真右下は幼稚園)

(6) 鶴岡市立櫛引中学校

<日時> 11月7日(金) 9:50~10:35

<概要> 熊本市立京陵中学校との交流校。生徒数154人、8学級(通常6学級、特別支援2学級)の小規模校。

<学校教育目標> 自ら学び、自ら鍛える、心豊かな生徒の育成

<経営の基底>

- ・伝統・校風を尊重し、知・徳・体の調和を目指す

- ・生徒・保護者・地域との信頼関係を基盤に、安定した学校経営
- ・地域資源を活用し、開かれた学校づくりを推進
- ・教職員の自己研鑽と協働による教育実践の充実



校長室での意見交換の様子



校内に展示してあるアート作品の様子

(7) 松ヶ岡開墾場

<日時> 11月7日(金) 10:50~11:45

<概要> 明治初期、旧庄内藩士によって開墾され、「鶴岡のシルク産業」発祥の地となった。1989年には国指定史跡に認定され、2017年には日本遺産「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」の構成文化財として認定された。



松ヶ岡本陣
(明治5年に移築された庄内藩士の休憩所)



松ヶ岡本陣内での様子



松ヶ岡蚕室郡内の様子



松ヶ岡開墾記念館（一番蚕室）



シルクミライ館（四番蚕室）



松ヶ岡の歴史の説明を受ける様子



繭の糸の長さの説明を受ける様子



館内の様子（写真左は「力織機」の展示）